

(仮称) かすかべエリアプラットフォーム 勉強会



エリアプラットフォーム
関係者向け資料

※画像はイメージです

2026/9/8

strictly confidential
【閲覧制限A】提出企業様のみ

関係者
限定

開催概要

日時 2026年9月8日（火）18:00-20:00

場所 春日部市役所 会議室201～203

対象 部会メンバー + 任意参加

本日の目的

01 社会実験企画の「種」を育てる

02 APメンバーの相互理解とチームビルディング

企画を磨き上げ、未来ビジョンの「柱」要素との連携へ

タイムテーブル

INPUT → OUTPUT

- 18:00-18:15 ● 振り返り／トピック情報共有
- 18:15-18:35 ● YUASA 事例紹介 社会実験の目的・実施風景・実現方法など | WEB
- 18:35-18:40 ● 質疑応答
- 18:40-19:00 ● ハートビートプラン 園田氏 事例紹介 企画→実行→検証のプロセスと重要な視点
- 19:00-19:10 ● インプット&質疑応答 春日部駅周辺の公共空間情報（伸びしろマップ+α）
- 19:10-19:55 ● APメンバー企画発表&フィードバック
発表5分+フィードバック5分+意見交換5分 × 3名
- 19:55-20:00 ● まとめ

15分 × 3名

事例インプット → 企画発表 → 相互フィードバック → 社会実験企画の具体化・連携へ

振り返り

年内の未来ビジョン策定・10月発表会に向けて、**ビジョン要素協議・運営規約/ルールの検討**
※APリーダーの確定および発足は、9月中予定へ後ろ倒し継続協議へ（本日も協議予定）・一般公開イベントは時期含め再検討

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
主な内容	交流会	テーマ選定/ 企画仮説立案	フィールド ワーク	勉強会/ 企画発表/ AP発足	企画立案/ APリーダー 確定	企画発表会/ 未来ビジョン 骨子	社会実験候補の 選定	未来ビジョン 完成/部会設立	社会実験の検討	未来ビジョン データ完成	報告会/未来ビ ジョン冊子完成
未来 ビジョン		●定例検討会（月1開催） ●ビジョン要素構成の協議	●ビジョン要素の個別協議	●ビジョン要素の個別協議・運営規約/ルール確定	●ビジョン要素の個別協議(部会ルール/意思決定フローなど) ●APリーダーの確定 ●AP発足	●定例検討会（月1開催・APリーダー主導） ●ビジョン骨子発表	●ビジョンの具体協議/社会実験候補の選定	●ビジョンの方向性確定			●報告会/ 成果発表
企画	●企画の仮説立案 ●交流会（テーマ案収集/チーム組成）	●検討会（テーマ×企画仮説立案）		●企画立案/部会構築検討	●勉強会(企画案の発表)	●企画発表・企画の具体化・部会設立 ●企画発表会 ※一般公開⇒関係者限定	●社会実験テーマ仮確定 ※実施確定は来年度 ●部会リーダー選定/部会設立	●社会実験の検討（部会単位）			●社会実験方法/KPIの検討

テーマ分類	課題	内容
① 目的・ビジョンの明確化	市としての理念・方向性の提示不足	APが目指すゴールや市のビジョンが見えず、メンバーが企画を立てづらい状況。APの意思決定機関としての立ち位置や権限も不明瞭。今年度は詳細なビジョン策定ではなく、コンセプトの方向性やキーワード整理にとどめ、小さな実践を通じたコンセプトづくりが有効。
	メンバー間の認識・温度差の解消	メンバーの目的や温度感、対象エリアや企画内容が多様につき、混乱しているメンバーも存在。ゴール・目的などを毎回振り返りながら共通認識の醸成が必要。
② 参画/運営体制	組織代表者の任期・異動を見据えた参加ルールの整備	商工団体や金融機関からの参加者は任期交代や人事異動があるため、属人的な重役（リーダー等）を担いづらい。組織として継続参加できる仕組みが必要。
	APメンバー間の関係値/理解不足	メンバー同士の関係性が十分に構築されておらず、共同作業を行う段階に至っていない。急いでビジョン策定やプロジェクトを進める前に、小さな実践を通じた関係構築が必要。
	組織化への懸念（規約やピラミッド型組織）	ビジネスではなく有志主体の集まりであるにもかかわらず、法人化や上下関係のあるピラミッド組織を導入すると、リーダーに左右されたりメンバーの負担が大きくなり機能しなくなる懸念がある。
③ 資金/事業モデル	持続可能な事業モデルと資金の確保	ボランティアや補助金頼みではなく、活動を継続するための支援と、自走・収益化できるビジネススキームの構築が必要。
④ 行政連携・伴走体制	縦割り行政の解消とハード・ソフトの連携	都市計画（ハード）とAP活動（ソフト）の連携が見られず、庁内横断的なサポート体制の構築が重要。
	担当者異動による議論/関係性のリセット防止	行政担当者の異動によってこれまでの議論や関係性がリセットされることへの懸念があり、属人的にならない仕組みや強いリーダーシップが必要。
	コミュニケーションのあり方	APメンバーへの連絡が事務的であり、モチベーション低下を招いている。丁寧で寄り添った対話的なコミュニケーションが必要。
⑤ 地域理解	地域からの理解不足（APの閉鎖性・誤解）	APが「選ばれた人だけの特権的な組織」と誤解され、参加外の地域住民・事業者からの不満や誤解を生んでいる。開かれた場であることを広く発信する必要がある。
⑥ 空間活用	滞留・周遊を促進する空間活用とインフラ環境の整備	駅周辺において、文化活動や実証実験（イベント・展示・キッチンカー等）を行えるフリースペースの不足や行政手続きの煩雑さがあることに加え、安価な駐車場が通勤客に占有されて来街者が停めづらい状況にある。まちの滞留・周遊性や地域経済のにぎわいを高めるため、空間利活用のハードルを下げながらインフラ（駐車場等）の利用ルール適正化・環境整備が一体となって求められている。

理念・方向性の共通理解⇒
インプットし続ける
(方針・事例など)

AP活動の理解促進⇒
官民連携メリットの可視化/
持続可能な仕組み構築

官民連携メリット可視化①
⇒市のサポート事例/交付金
活用事例などの共有

官民連携メリット可視化②
⇒市のハード整備など
ドピック共有

未来ビジョン会議/部会

APメンバーの
相互理解/関係性構築
⇒交流・情報共有し合い
チームビルディング

意志統一と
活動内容の具体化
⇒運営/部会の切り分け

組織のあり方策定
⇒ビジョン会議で
意見収集&反映

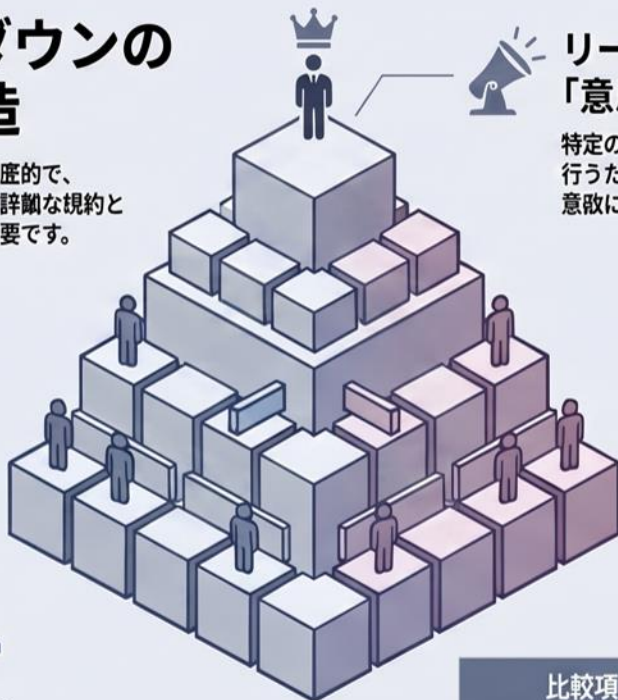
地域への情報発信/理解促進
⇒10月中間発表に向けて
広報強化/個別に協力依頼

どのような運営体制が目的に向かって活動しやすいか

従来のピラミッド型（管理・承認型）

トップダウンの階層構造

 指示系統が重層的で、全ての行動に詳細な規約と事前承認が必要です。



リーダーは「意思決定者」

特定のリーダーが指示と決断を行うため、その個人の能力や意欲に依存します。



属人性が高く、
停滞リスクが大きい

行政の人事異動やキーマンの退職により、事業の継続が困難になる傾向があります。

提案するプラットフォーム型（オープン・自律型）

フラットなネットワーク

 ビジョンを共有し、ガイドラインの範囲内で参加者が自律的に活動できる場を提供します。



ファシリテーション
自治体/中間支援が
方向性に導く

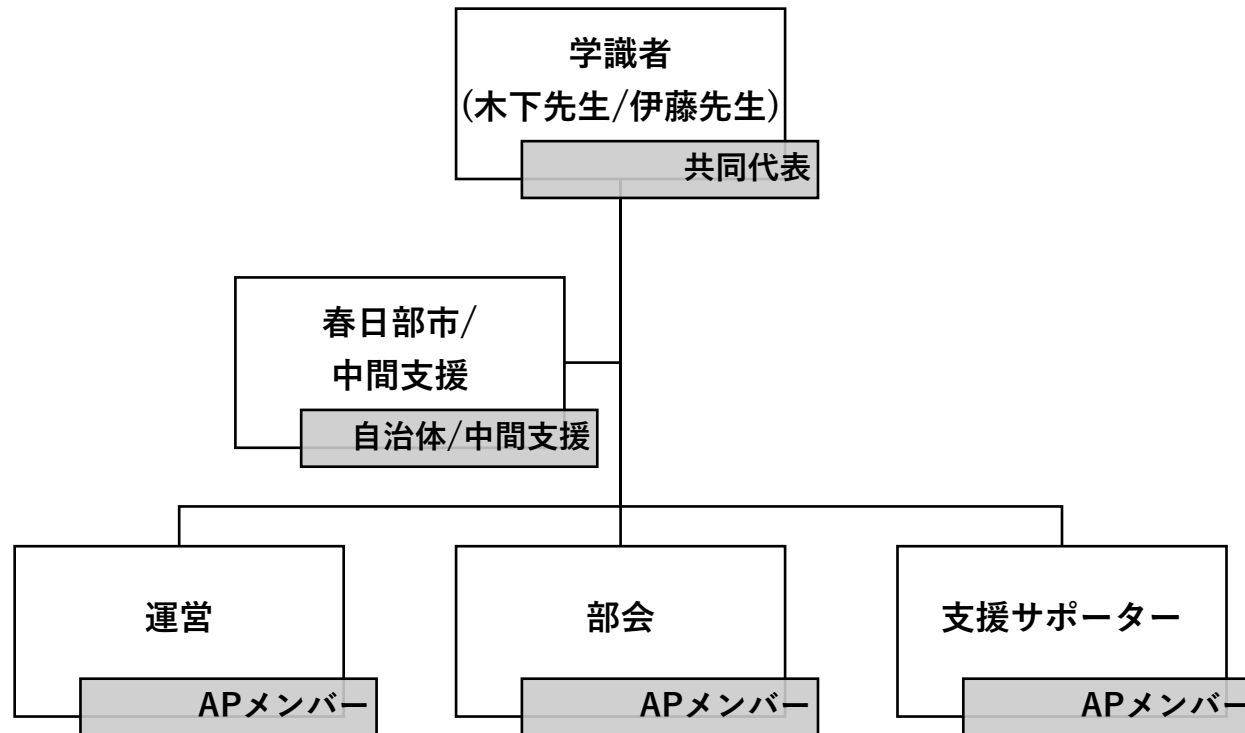
意思決定ではなく、環境整備や機会の創出、プレイヤー同士の接続に注力します。



低い属人性による
持続可能性

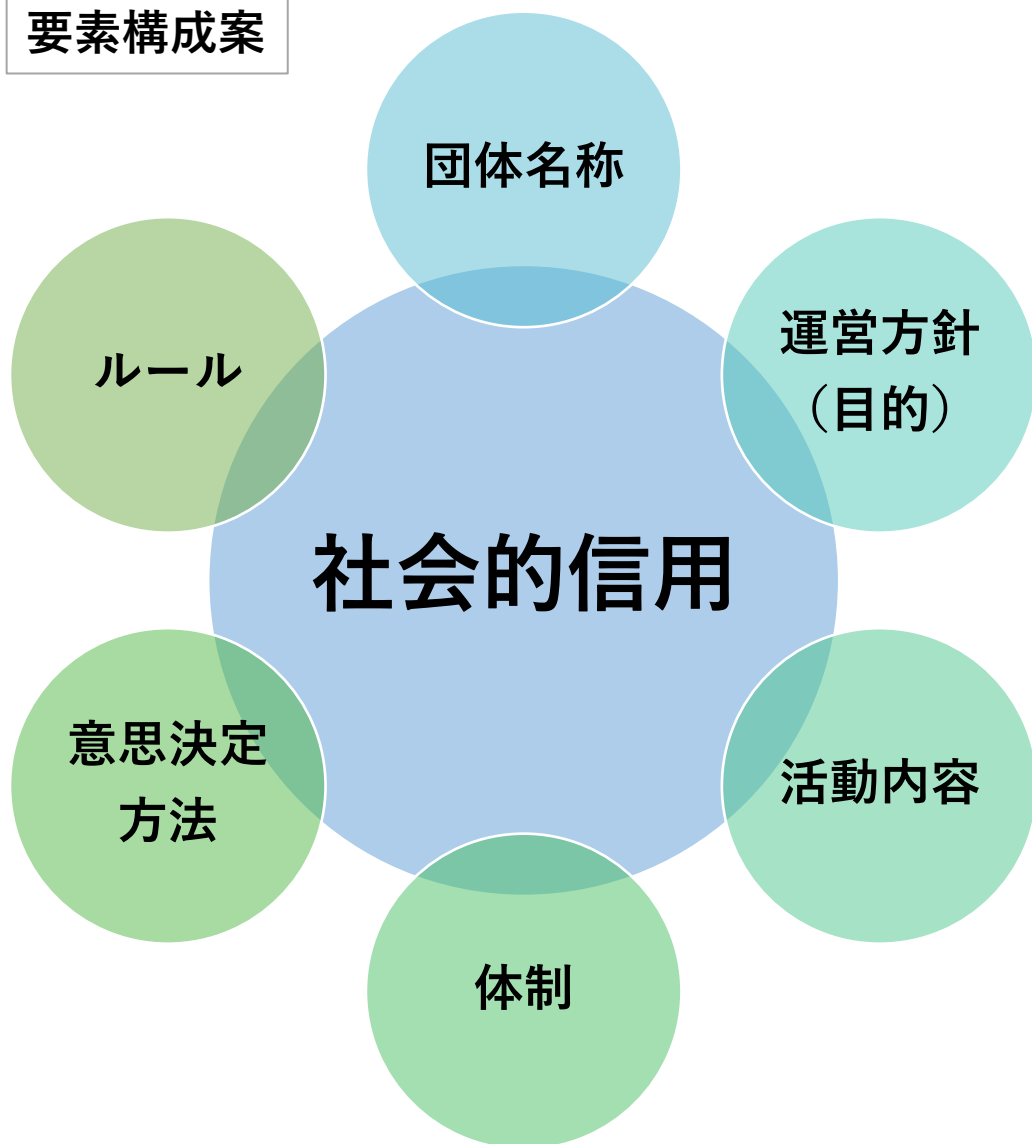
新陳代謝が起きやすく、特定の個人に依存しないため、長期的な活動が可能です。

比較項目	従来のピラミッド型	提案するプラットフォーム型
 行動の基準	詳細な規約と事前承認	ビジョン/内部規定が軸
 参加者の動き	指示待ち・調整に疲弊	自律的・スピーディな実践
 組織の目的	統制と管理	共創と価値創出



オープンなプラットフォームかつ
フラットなネットワークとして、
学識者の木下先生/伊藤先生を
共同代表に選任する案

要素構成案



誰向け？

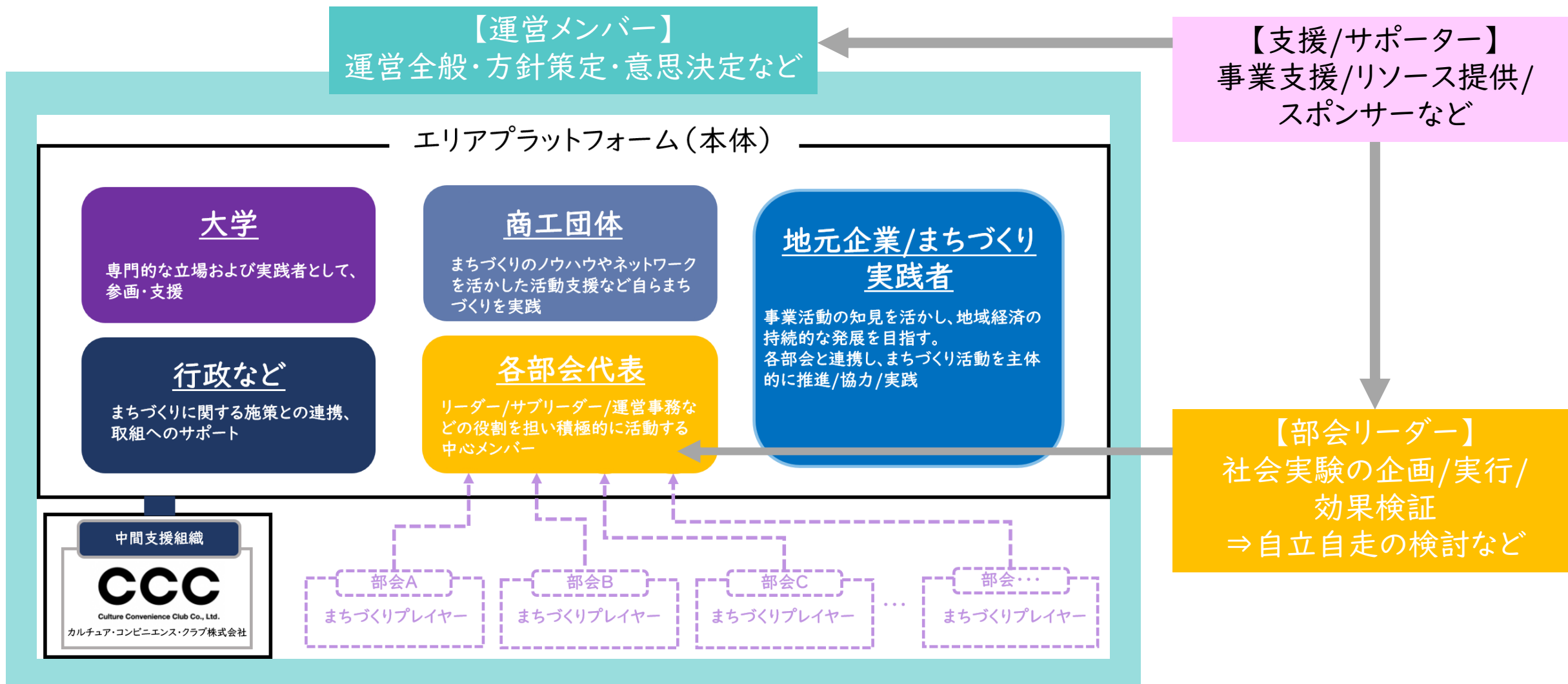
- APメンバー⇒共通認識/内容同意
- 一般公開⇒社会的信用

内容は？

- 活動内容・体制（代表/役員の決定）・意思決定方法・最低限のルールを定めたもの

用途は？

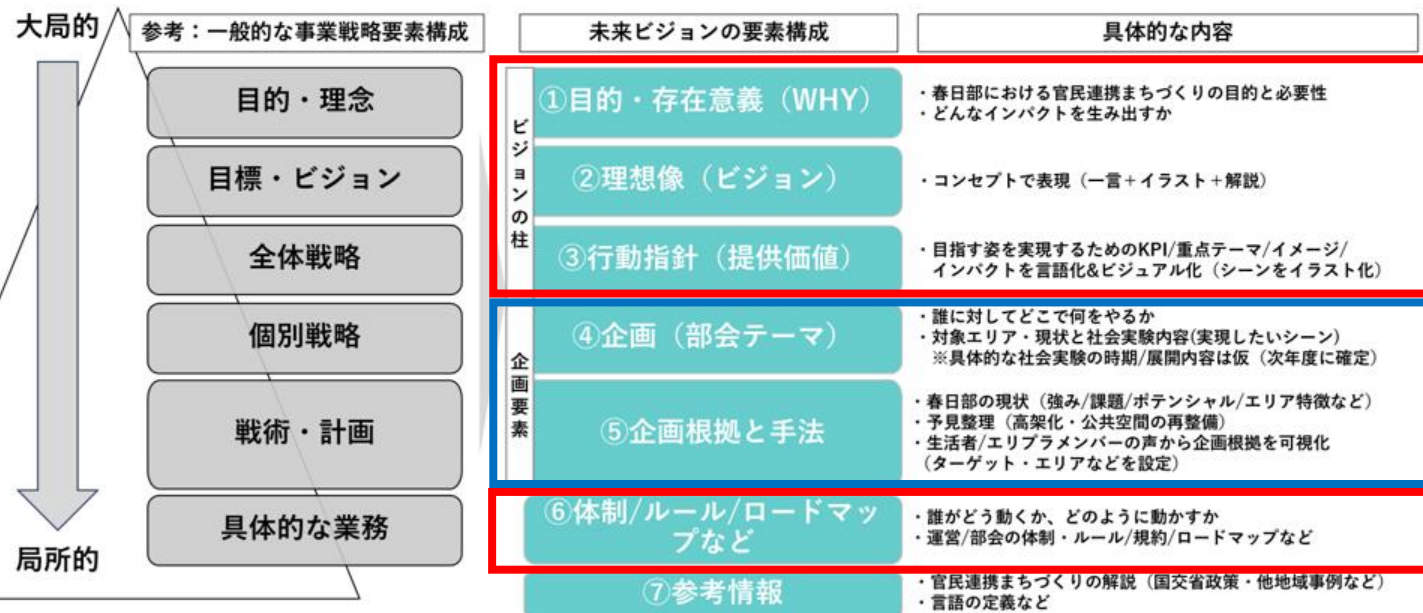
- ①APの運営方針を言語化することで共通認識でき、APメンバーの意思統一と円滑な運営ができる
- ②APメンバーにおける最低限の遵守事項（ルール）を定めることで、トラブル防止につなげることができる
- ③国の交付金や支援を受ける際に、どのような任意団体が説明できる証憑として活用できる
- ④一般公開することで外部からの理解や安心感が高まり社会的信用につながる。サポーターや理解者が増え活動しやすくなる



2-1. 未来ビジョン要素構成



一般的な事業戦略要素構成と先進事例（松本城三の丸APなど）を参考にしながら
エリアプラットフォームの活動方針と活動内容が分かる要素構成



Copyright © Culture Convenience Club Co., Ltd. All Rights Reserved.

11

【運営】
未来ビジョン会議メンバーで
APの活動方向性を決めていく

【部会】
活動内容を企画して実行する
部会リーダー/メンバー

【サポート】
AP活動を支援する事業者/団体など

情報連携

役割分担案（個別相談会でのヒアリング内容を踏まえて）

26年8月28日未来ビジョン会議資料より

リスト＝敬称略・順不同



運営メンバー（参加推奨：未来ビジョン会議）

no	所属	氏名	役割案
1	粕壁商店街 NEXTPROJECT 商店街活性化部会長	三輪	運営役員
2	公益社団法人春日部青年会議所	並木	運営役員
3	ナオナ	角辻	運営役員
4	東横INN春日部駅西口	荒井	運営役員
5	東京藝術大学教育研究助手/グローバル・ダンス・コレクション代表	酒井	運営役員
6	春日部商工会議所（青年部）	田中	運営役員
7	フォトグラファー	梶	運営役員
8	株式会社MRP	石丸	運営役員
9	東武トップツアーズ株式会社	内藤	運営役員
10	春日部西口商店会連合会	佐々木	運営役員 支援/サポーター
11	春日部駅東口商店会連合会 粕壁商店街 NEXTPROJECTリーダー	飯山	運営役員 支援/サポーター
12	埼玉りそな銀行	齋田	運営役員 支援/サポーター
13	武蔵野銀行	吉澤	支援/サポーター
14	埼玉縣信用金庫	深野	支援/サポーター
15	BORDER CAFE	中村	支援/サポーター
16	一般社団法人春日部市観光協会	折原/尾沼	支援/サポーター
17	ブルーミーズ	高橋	支援/サポーター
18	匠大塚	外谷地	支援/サポーター
19	庄和商工会（青年部）	野村	支援/サポーター

部会リーダー/メンバー（参加推奨：部会会議）

no	所属	氏名	区分
1	フォトグラファー	梶	リーダー
2	市民活動団体 Life Connect +1	関根	リーダー
3	株式会社MRP	石丸	リーダーorメンバー
4	地域活性化コーディネーター f	大成	リーダーorメンバー
5	教職員	長田	リーダーor各部会と連携
6	よんなな防災会/京都大学大学院情報 学研究科	竹	リーダーor各部会と連携
7	春日部商工会議所（青年部）	田中	各部会と連携

参加人数が多く、発言しづらい/
まとまりづらい問題の解消



役割分担を整理



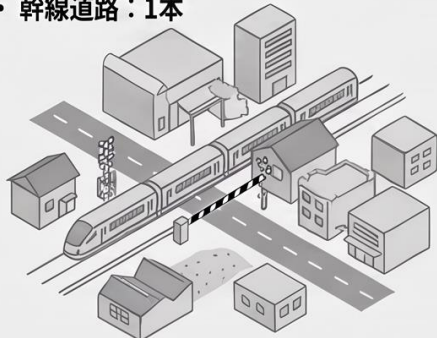
参加推奨会議への参加 &
積極的な提案などご協力をお願いします

※未来ビジョン会議/部会会議共に推奨でなくとも参加可能

鉄道の高架化や駅前空間再編を契機に 「通過する駅前」から「人が過ごし、滞在し、交流する駅前」への転換

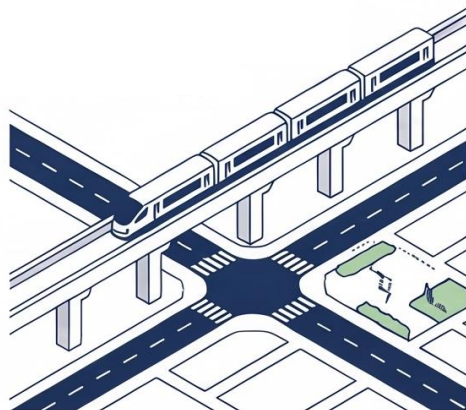
BEFORE : 行政主導の「通過する駅」

- ・従来の行政主導型
- ・踏切による分断（139年の歴史）
- ・幹線道路：1本



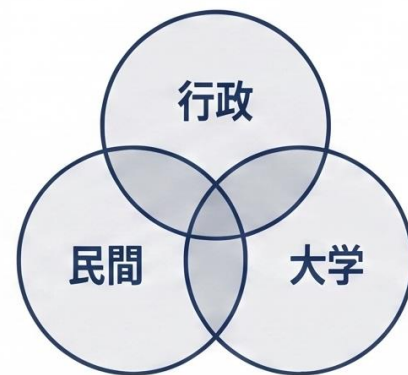
従来の行政主導型
踏切による分断（139年の歴史）
幹線道路：1本

100年に一度の好機： 鉄道高架化と基盤整備



鉄道の高架化に伴い、
公共空間が一体的に再整備
東西回遊性の向上

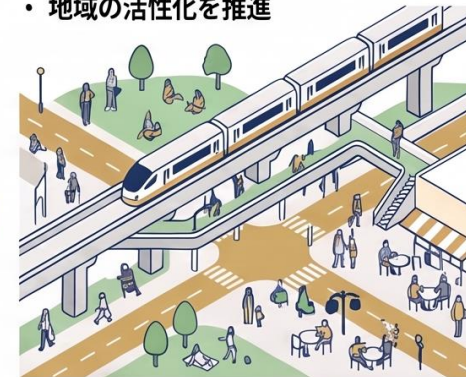
NEW STRUCTURE : 官民連携「エアプラットフォーム」



行政、民間、大学が一体となり、
地域の課題解決と未来ビジョンを共有
新たな体制の構築

AFTER : 官民学連携の「滞在・交流する駅」

- ・居心地が良く、歩きたくなる駅前空間
- ・地域の活性化を推進



地域の活性化を推進
幹線道路：3本
滞在快適性の高い公園・広場

PROCESS & BENEFITS : 実現に向けた新しい手法と持続可能性

社会実験から計画をつくる



運営視点を持つプレイヤーが初期から
関わり、実験結果を施策に反映

PDCAサイクル



持続可能なエリア価値の向上

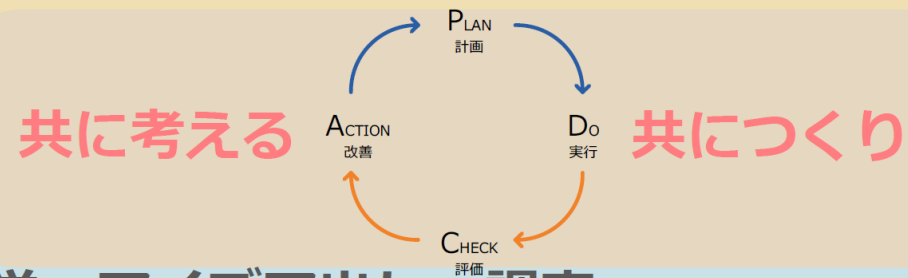


自立自走型の運営体制を築き、
一適性ではない地域の賑わいと発展を実現

●「公民連携＋学」によるまちづくり

公民連携＋学によるPDCAサイクル

民



学：アイデア出し、調査
モノづくり（×安価な労働力）

公：調整、支援、場づくり

■ 24

●「公民連携＋学」によるまちづくり

行政：サービスプロバイダーから プラットフォームビルダーへ*

*西野辰哉：人口減少期の地域・施設・計画のパラダイムと課題-最適化・使いこなし・コミュニティ マネジメント-、2019年度日本建築学会大会（北陸）建築計画部門研究協議会資料、p.p. 5-8、日本建築学会、2019年



公：調整、支援、場づくり

■ 25

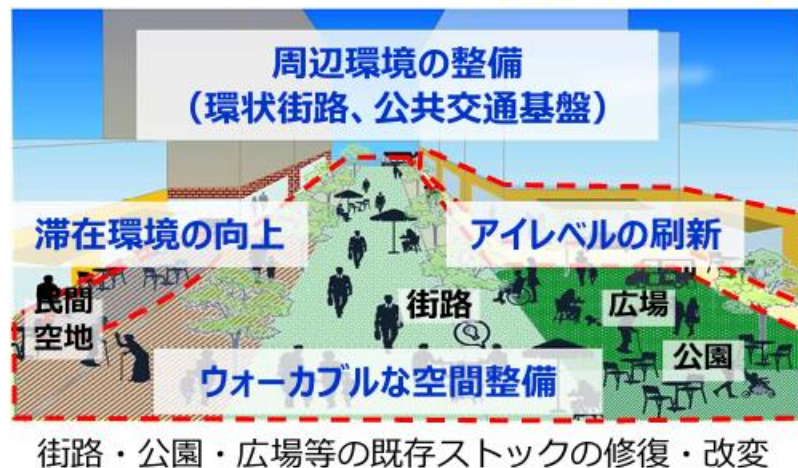
共に考え、共につくる

自治体の役割は、調整・支援・場づくり （来年度の社会実験では国の交付金も活用検討中）

エリアプラットフォームの構築（官民の様々な人材が集積）

未来ビジョンの策定（エリアの将来像を明確にして共有）

「居心地が良く歩きたくなる」空間の整備
まちなかウォーカブル推進事業
ウォーカブル推進税制



官民連携による持続的なまちづくり活動



公共空間等を活用した社会実験・データ活用

公共空間の利活用
まちなか公共空間等
活用支援事業



デッキを活用した
賑わい創出

PROCESS_FLOW

生活者デプスインタビュー結果より

課題の直視と分析（現状から導き出されたニーズ）



「通過点」からの脱却と
「滞在」への渴望

買い物場所の減少や休憩インフラの欠如により、用件後すぐに他駅へ流出している現状。

47.4%

47.4%が望む「居心地
の良いサードプレイス」

未来ビジョンの構成要素として、日常の延長でくつろげる空間への期待が圧倒的。



物理的・心理的分断
の解消

鉄道高架化への期待は高く、歩行ストレスのない東西のシームレスな接続が必須。

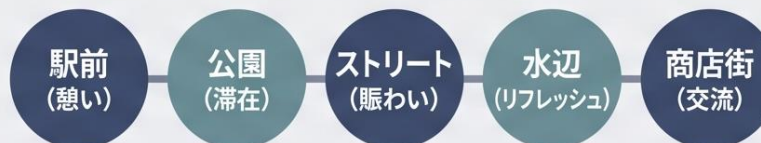
未来ビジョンの具体化（エリア別の展開とプロセス）

駅を「ゴール」から「まちのハブ」へ

鉄道高架下や駅前広場を起点に、公園や水辺へウォーカブルにつなぐ。



5つの重点エリアによる価値創造



年内を目標とした個別テーマの深掘り

ブレストと検証を経て、マーケティングデータを踏まえた具体的な施策へ反映。

企画シート内容からビジョン要素を抽出

未来ビジョンへの展開（主要テーマとその狙い）

テーマ	%	狙い
 居場所・サードプレイス	24.5%	単なる通過点から、思わず足止めしたくなる心地よい空間の創出
 日常・リビング化	22.9%	ベッドタウンを脱却し、街中で豊かに過ごせる「街のリビング」を実現
 カルチャー・体験	15.4%	音楽・アート・マルシェなど、日常にワクワクをもたらす体験を提供

個別テーマを協議しながら、コンセプト・テーマに反映させていく

開催概要

日時 2026年9月8日（火）18:00-20:00

場所 春日部市役所 会議室201～203

対象 部会メンバー + 任意参加

本日の目的

01 社会実験企画の「種」を育てる

02 APメンバーの相互理解とチームビルディング

企画を磨き上げ、未来ビジョンの「柱」要素との連携へ

タイムテーブル

INPUT → OUTPUT

18:00-18:15 ● 振り返り／トピック情報共有

18:15-18:35 ● YUASA 事例紹介 社会実験の目的・実施風景・実現方法など | WEB

18:35-18:40 ● 質疑応答

18:40-19:00 ● ハートビートプラン 園田氏 事例紹介 企画→実行→検証のプロセスと重要な視点

19:00-19:10 ● インプット&質疑応答 春日部駅周辺の公共空間情報（伸びしろマップ+α）

19:10-19:55 ● APメンバー企画発表&フィードバック
発表5分+フィードバック5分+意見交換5分 × 3名

15分 × 3名

19:55-20:00 ● まとめ

事例インプット → 企画発表 → 相互フィードバック → 社会実験企画の具体化・連携へ

【インプット & 質疑応答】 春日部駅周辺の公共空間情報 (伸びしろマップ + α)

開催概要

日時 2026年9月8日（火）18:00-20:00

場所 春日部市役所 会議室201～203

対象 部会メンバー + 任意参加

本日の目的

01 社会実験企画の「種」を育てる

02 APメンバーの相互理解とチームビルディング

企画を磨き上げ、未来ビジョンの「柱」要素との連携へ

タイムテーブル

INPUT → OUTPUT

18:00-18:15 ● 振り返り／トピック情報共有

18:15-18:35 ● YUASA 事例紹介 社会実験の目的・実施風景・実現方法など | WEB

18:35-18:40 ● 質疑応答

18:40-19:00 ● ハートビートプラン 園田氏 事例紹介 企画→実行→検証のプロセスと重要な視点

19:00-19:10 ● インプット&質疑応答 春日部駅周辺の公共空間情報（伸びしろマップ+α）

19:10-19:55 ● APメンバー企画発表&フィードバック

発表5分+フィードバック5分+意見交換5分 × 3名

15分 × 3名

19:55-20:00 ● まとめ

事例インプット → 企画発表 → 相互フィードバック → 社会実験企画の具体化・連携へ

メイリンの春日部パトロールII

動物を大切にすることから、 まちのつながりをつくる

— 犬を入口に、人と動物・人と人・人と地域がつながる駅前の拠点構想 —

自分にとって、春日部市にとって、
必要な防災（災害への備え）をみんなで考える
場づくりの提案